



2024年度 3学年通信

# 「疾風勁草(しっふうけいそう)」

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

甲府東高等学校  
2024. 6. 21(金)  
第4号



3組担任 平嶋 純

我が家は4人の子どもがいる。高校2年女子、中学3年男子、小学6年女子、小学3年男子。食べ盛り。4人ともに声がでかい。平嶋と嫁さんで我が家の4人を含めて20名の選手をボランティア水泳クラブに受け入れて指導している。

わがクラブはかなりハードに練習をしている。ただ、夏シーズン開幕戦でつまづいた。その後の小さな大会でも思ったような結果を残せていない。とても悔しい。原因を探った。

思い当たるのは、練習量・質、練習の理解度、日常生活の過ごし方、立位の姿勢、立ち振る舞い・・・など。なかでも、今シーズンテーマにした「教えあい、励ましあい、目標の共有」ができていなかった。なぜか？

我が家の上3人の子どもたちの「私じゃないもん!」とか、「俺はやったから」といった「自分だけ良ければいい」という考え。この考えがクラブ内でどこかはびこっているように感じていた。泳ぎの修正をするためアドバイスを送っても、子どもはやっている「つもり」になって、技術が定着しない状況が続いていた。アドバイスしても「私はやっている」、「私には関係ない」とか・・・「自分だけ良ければいい」という考えは個人の意識レベルを下げる。それがクラブ内にも影響を与えていた。それまで一生懸命タイムを伸ばそうと努力していた選手が指導者に反発する別の選手の姿を見れば、「それでいいんだ」と同様に意識レベルが下がる。蔓延した低い意識は組織のレベルを下げ、組織の存在価値も低くする。夏シーズン初戦を振り返ると、年上の選手が年下の選手に教えることもなく、チームで応援することもなかった。

皆さんの学園祭の準備、当日はどうでしたか?誰かのために一生懸命になれましたか?クラス・ブロックの目標に向けて協力できましたか?

皆さんが蒔いた種はいずれ花開くと思います。人は受けた恩を返したくなるものです。まもなく受験シーズンになります。クラスで、学年で変化があります。推薦入試で合否が分かれた生徒たち、一人で受験する2月・・・誰かのために一生懸命になろう。みんなで花を開かせよう。

## 7月の主な行事予定

- 7月 1日(月)～ 5日(金) 三者懇談 (1日～3日:午後授業カット 5日:6校時カット)
- 1日(月)～12日(金) フードドライブ
- 3日(水) 前半カセット▲
- 4日(木) 5分短縮授業
- 5日(金) 5分短縮授業 教育相談
- 6日(土) 土曜講座
- 9日(火) 前半カセット▲
- 13日(土) 土曜講座
- 17日(水) 一括徴収金集金
- 18日(木) 前期中間試験 学年集会
- 19日(金) 前期中間試験 納め式 全校集会 大掃除 LHR
- 22日(月)～26日(金) 夏期講座①
- 28日(日) 全統共通テスト模試(外部)
- 29日(月)～8月1日(木) 夏期講座②



## 「シン・準備期間のスタート」

学年主任 遠藤祐也

最後の蒼龍祭が終わってしまいましたね。学園祭に向けた君たちの意気込みは非常に大きかった。ブロック長や副ブロック長、学園祭実行委員長(蒼長)はいずれも多くの生徒が立候補し、話し合いや投票などで決まりました。そして決まったリーダーたちは、しっかりと仕事をやり遂げてくれました。ただ賑やかさだけではなく、各部担当の生徒・後輩たちとの連絡調整やクラスの困りごとに向き合う姿勢を随所で垣間見ることができ、リーダーとして成長してくれたと嬉しく思います。また、リーダー役に就けなかった生徒も、腐ることなく他の生徒たち同様に、自分の仕事に力を尽くしてくれました。それぞれの制作物や企画、合唱や文化部発表いずれも、1年次2年次から大きくレベルアップし、技術の高まりだけでなく、より高みを目指そうとする心の成長も感じられる素晴らしいものでした。

職員室の私の座席前は生徒会担当の席です。主任の米山先生、副主任の谷戸先生をはじめ、生徒会の先生達は学園祭の成功に向けて各方面との調整等、本当に尽力されていました。また、生徒会の生徒達は昨年度から準備を始め、頻りに担当職員の所へ顔を出して打合せをしていました。予算や教室を割り振ったり、保健所と交渉したり、VTRを編集したり・・・華やかな学園祭の裏側で多くの生徒・職員が汗をかいていたことを君たちは忘れてはいけません。成功の裏には目立たないところで多くの人が流した汗があるのです。

さて、多くの生徒が部活動にも区切りをつけ、それぞれの「進路実現」という目標に向けた君たちの「次の準備期間」が本格的に到来します。蒼龍祭とは異なり、演者も裏方も全て自分が担当者です。演者としての自分が最大限の力を発揮できるよう、裏方としての自分がどれだけ汗を流せるのか、そこに「シン・準備期間」の成否がかかっているのです。

## フルジュンの霞ヶ関だより



皆さんこんにちは。高校生活最後の学園祭はいかがでしたか?きっと、この上なく盛り上がったことでしょう。遠藤先生のピンクの頭の謎についてとか、皆さんが活躍する様子なんかを、一緒に過ごせていたら見られたのだろうな・・・と、あれこれ想像しながら私はこの1週間を過ごしました。

さて、この3か月の間に、私はいくつかの学校に授業を見せてもらいに行きました。一人一台端末がそれぞれの学校でどんな風に使われているかを、勉強させてもらっているのです。そしてびっくりしてしまう。活用が進んでいる学校では、小さな小学生でも、端末を自分の手足のように自在に操っています。こんな風に授業でものごく端末を使っている小学生が将来高校生になり、大学生になっていくんだなあと思ったら、焦りのような気持ちがわいてきました。思わず皆さんとの年の差を考えてしまいました。そう遠くない将来、皆さんはこうした後輩たちと一緒に働くことになるのだろうな、と思います。端末は道具に過ぎませんが、道具のよさを理解して使いこなせることは一つの大きな武器になりますね。

皆さんにもたくさんの武器があると、私は知っています。学園祭を終えて、新たな武器を手に入れた人もいることでしょう。これから先を見据えて着々と準備を進めていく中で、ご自分の持っている力を大切にしつつ、さらにそれを洗練させていけるように、願っています。(古川順子:前職員・文科省出向中)

# 進路指導係より

先月に引き続き、皆さんから寄せられた「よくある質問」に答えてみました。

Q.明確な進路希望がなく、学部学科をどうしたらいいかわかりません。

A1.もちろんまずは自分自身と向き合い、自分は何に興味があるのか、何を調べていると楽しいと感じるのかなどをもう一度よく考えてみてください。そして大切なのは自分で能動的に決めるということです。もしかして「ある日突然やりたいことが見つかり、行きたい学部が決まる」とか「誰かが目からうろこな情報をくれてその大学を目指したくなる」というように考えてはいませんか？進路希望は何かのきっかけで『決まる』ものではなく、あなたが自分の意思で『決める』ものです。自分で決める進路だからこそ、その先で多かれ少なかれ降りかかる苦労や困難も乗り越えていけるようになるのだと思います。

A2.最近では入学後に学部を選択できる大学が増えてきています。その一例を紹介します。

「北海道大・前期総合入試」「筑波大・総合学域群」「金沢大・文系一括」「金沢大・理系一括」また、学部は決まっているけれど学科やコースは入学後に選べる大学もあります。

「福島大・理工学群」「千葉大・法政経学部」「電気通信大・情報理工学域」「新潟大・理学部、農学部」「富山大・人文学部」「山梨大・工学部」などです。今あげたものが全てではないですし、興味があれば自分で調べてみるべきですが、選択肢の1つになれば幸いです。

Q.人前で話すのが苦手だが、面接試験がある大学を受けて良いものなのか？

A.話すことが得意であるに越したことはないですが、苦手であるという理由だけで諦めてしまう必要もないと思います。例えば「何でもない会話をするのは苦手だが、好きなことや専門的なことならたくさん話せる」という人は、むしろ面接の適性ありと言えます。そして面接は練習すればするほど上達します。受験で面接が課される場合は担当の先生がついて練習をしてくれるので、自信が持てるようになるまで何度も練習していきましょう。

むしろ話し上手な人であっても「志望する大学や学部学科のことをよく知らない」「高校で何を頑張ったかと聞かれて答えられない」という人こそ注意が必要です！面接官もプロなので、付け焼刃で調べた知識や脚色した高校生活の話なんてすぐに看破されてしまいます。話すのが好きだから、という程度の感覚で面接に挑むのはおすすめしません。

Q.周りの友達が本格的に勉強を始めていて、すごく焦る。どうすればいいか？

A.周囲が受験モードに入ると焦りを感じる人は多いようですが、これに対する最も有効な解決策は「あなたも本気で始めること」だと思います。友人たちが走り始める中、自分が立ち止まっていたら、遠ざかっていく背中に焦りや孤独を感じてしまうことでしょうか。あなたも同じように走りだし、肩を並べられるようになれば、並走してくれる友人たちをむしろ頼もしく思えるはずですよ。もしかしたらあなたの頑張る姿を見て、自分も頑張ろう！と励まされる友人もいるかもしれません。そういった関係性を築き、クラスや学年という集団の中で支え合いながら進んでいくことが『受験は団体戦』という言葉の本当の意味だと思います。

Q.そもそも受験勉強って何？ふだんの勉強と何が違う？

A.あえて書かなければ「目標とする大学の過去問レベルが解けるようになるための勉強」ということになります。そんなこと分かってる！と思うかもしれませんが、じゃあ何をしたらそれを達成できるのか明確になっていますか？簡単にですが、何をすべきか伝えておきます。

①赤本などで志望大学の配点・頻出単元・問題形式を確認

⇒まずはゴールを確認し、今の自分との差を知ろう

②高校での履修内容全体（教科書レベル）を把握し、頭に入れておく

⇒定期試験ではできたのに忘れている、というものを学び直す

③応用知識を増やす

⇒受験する大学が求めるレベルによるが、教科書以上の知識が必要になることも多い

④応用問題を解く訓練をする

⇒いわゆるアウトプットの練習です。

⑤過去問を時間内に解く

⇒出題形式は大学によって様々。その大学の形式や難易度に慣れましょう。

Q.朝型と夜型、どちらがいいのか？

A.自分に合った方でやっていくべきだとは思いますが、あえてここでは「朝型」をおすすめしたいと思います。その一番の理由は入試本番は朝から始まるからです。普段夜型で起床がそこまで早くない人からすると入試当日は「早起しなればいけない日」になりますが、朝型の人からすれば「いつも通りに起きればいい日」です。それだけで精神的な負担感が変わってきます。また、脳が一番よく働くのは起床から3～4時間後とされています。入試当日で最高のパフォーマンスを発揮しやすくなるということからも、早起きに慣れて朝型の勉強習慣を確立することには大きな意味があるのではないのでしょうか。

共通テストの  
範囲はここまで！